



特250
573

神
と
人

木庄蔵著



始



218

特 0 B

573

神
と
人

木
庄
藏
著

3

5



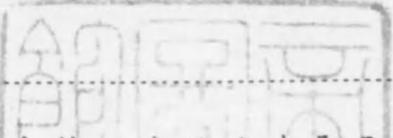
これは花壇に於ける
最近の本書著者

「悦びに溢れて……」

嗚呼ゆかしき天地の御業 親しみ深き敬愛する兄弟よ
悦び溢るゝ私の体験と、心境の一端とを……つたなき筆に現はして見ます
れば、主の御言葉にて、われ平安を汝らに遺す、わが平安を汝らに與ふ。わが與ふ
るは世の與ふる如くならず。世と世の慾とは過ぎ往く人の世にあるは影に異ならず
その思ひ難むことは虚しからざるはなし、その積蓄ふる物は誰が手に納まるを知ら
ず、その時に今は恥とする事によりて何の實を得しか、これらの極は死なり。マル
タよマルタよ汝さま、の事により思ひ煩ひて心を勞す、されど無くてならぬもの
は多からず、唯一つのみマリヤは善きかたを選みたり、此は彼より奪ふべからざる
ものなり。

わが欲する所は汝らが思ひ煩はざらん事なり、此等のことを汝らに語りたるは
汝ら我によりて平安を得んが爲めなり、なんぢら世にありて患難あり、されど雄々
しかれ我すでに世に勝てり、願わくば平和の主みづから何時にても凡ての事に平和
を汝らに與へ給はんことを、願わくばエホバ汝らを恵み汝らを守りたまへ、願わく
ばエホバその血をもて汝らを照し汝らを憐みたまへ、願わくばエホバその面を擧げ
て汝らをかへりみ汝らに平和を賜へ。アーメン

青木庄藏



目次

顧七十體験……………一

内村先生曰く……………九

中田先生曰く……………一二

ユダヤ人と日本人……………一四

附 聖書の時代的表覽

顧七十體験

今を去る五十年、大和の山間より出でて大阪市に自家醸造せし酒販賣店を開きしに三年にして失敗し無一物となりたるも此まゝにては郷里に歸ることもならず如何にせんかと思ひし時、考へさせられ最早人を頼るの心を出すにあらず只々神と我のみ、今後の道は一筋に神に信賴すべきなりと確信し自ら働くに斯かずと「此の信仰と努力」とを興へられたるは神であつた。

明治二十二年三月三日大阪犬滿教會にて本間牧師より洗禮を受けそれより一生懸命家業につとめ朝は早く起き出て勇み進みて働き夜は遅くまでも疲れを厭はず毎日一日の勤勞二十時間を限度として働き續けたり。最愛の妻も亦志を一致し夜となく晝となく一生懸命内助にいそしみ、大いなる努力を續けくれし甲斐ありて商賣また次第に繁昌し十數年後には漸く人の仲間に入

るを得たるは全く神の恩寵であつた。

感謝のうちに三男二女を興へられ三十有余年間一日の如く信仰に依る生活を送り、今より二十五年前大阪市に初めて職業紹介所なるものを設立せんと思ひ友人にはかりて是を創立せり。然るに其頃未だ此事業の何たるを知らざる市民は非常に反對運動を起したり。その理由として、ルンペン數百人を集めて宿泊させられては近隣の者迷惑する故斯かる事業の必要なしと唱へし、區名譽職の人々まで加はりて大反對運動を起せり、然るに八濱氏之を説きて専ら此の事業の必要な所以を聞かせ充分諒解を興へ初めて同事業を我日本に創始したる次第、是は働けば決して就職難或ひは生活に困る等の事なきものと確信する自らの經驗せし事實故である、殊に勞働は神聖であるといふ我國體の根本にもとづき則ち此点より國民の第一思想根元を各自思ひ起せば就職難も不景氣も更にある筈なきものと確信し得。然し今日の如く八

時間勞働または理想のみ高く賃金の多きを望む等の如きは成功には不可能と信するのである。

是れが大阪と天満兩紹介所の最初である、其頃大阪市は非常に市政の紊亂を來し市民の多くが遺憾としたる所であつた。選ばれて大阪市政の席末を汚すに至り、その接する所の商業上や政治上に社會の混濁甚だしく飲酒藝者遊び等の交際見るに忍びず聞くに堪へず、遂に大正五年實業界及び名譽職等に縁を斷ち京都にて靜かに神を讚美したるが自分が此世に生命を興へられしは何等かの使命ありといふ大問題に遭遇した、それは神よりのさゝやきである、則ち聖靈の聲であつた。それより今日まで十五年間不ながら社會人道の爲め聊かなりとも貢獻する所あらばと思ひ禁酒が國家經濟、犯罪、衛生、教育及宗教等に關し重大な問題である事を社會に呼びかけた、大正十一年スタンフォード大學總長であられしジョーホルダン博士の來朝に際し同氏と共に

排アルコール研究を開始する事を協議せし處非常に喜び賛成せられたるを以て茲に財團法人青木匡濟團を設立し、翌十二年世界排酒第十七回大會のデンマークコッペンハーゲン市に開催され八十二ヶ國代表者三百有余名の出席ありて一週間に亘る盛大なる會が開かれたるに當り私も日本を代表して出席する光榮を得た、この會には英米佛伊其他各國より醫學、考古學、優生學、化學、法學等專門大家も集まられ、世界的人物としてはロンドンのサリビ博士、スイスのヘルコート博士、ドイツのゴンゼ博士、米國のポールステット氏の方方ありその人々にも會見の後、獨、佛、伊等を順次視察し至る所に於て研究した。殊に獨佛伊の内伊太利のローマは古代の都にて万国無比の古跡多く茲にて考古學大家ボーニ博士に面會した、氏はフオロロマノ發掘主任として親しく説明あり、氏の談に「ギリシヤ、ローマ埃及及バビロン並に印度支那に至るまで昔惜むべく尊むべき文明の崩壞はいづれも皆飲酒と男女等の共

に豪奢の限りを盡したる跡の實現と知られし故に我がイタリーは最も大切な國産である葡萄酒にアルコール含有の酒を造り各國に向けて販賣し居るが考古學の立場より此のバラチノ發掘を見てはこのまゝには捨ておかれずムツソリーニ氏と相談して新らしく禁酒法案の制定を實現するに至りし」と同主任ボーニ博士が土中の舊宮殿に案内され建築物研究の結果を説明せられ大いに教へられ學ばせられ實に驚くの外なかりし其當時が偲ばれた、尙イタリー禁酒法は三百五十人に對し酒屋一軒なるを以て、是れを五百人對酒屋一軒とする新提案なりといふ。

今より二千七百年前神の人ダニエルの豫言即ち舊約聖書ダニエル二章説明の如く今日に至る世界の歴史の出來事は皆是によらざるは無く神の聖詞は皆然らざるはなし、世界を廻りて實地見聞して神の御言詞の愈々大いなることを深く學ぶ事を得て非常なる喜びと感謝の日を送つてゐる。

爰に於て私が神より示された、亦世界を見聞なしたる實際に就て述べて見やう。

いづれの國も皆時代に依り盛衰あり王權にて其國を治めたりされど豫言の通り各國共に王はあれど無きが如く民衆民本として共和政治民本政治となり従つて道德地に墮ち男女の墮落甚だしく是皆豫言のさし示す所である。然るに我國は神より特別の使命を受け歴史より我國が神の攝理の中にありし事實として基督教は昨今日本に入つて來たのではなく余程以前より傳來したものである、七八十年前新教が來たことは皆人の知る所であるがそれより先三百年以前既に舊教則ち天主教が教へられて居る。更にそれより遠く昔に湖れば今より千三百年前に唐の時代景教なるものが入つて來たが唐の時代盛んに行はれたネストリアンのキリスト教である一体キリスト教なる名は歐洲に

於て用ひられた名でネストリアンにて傳へられ東へ東へと傳つて支那に入りて景教と呼ばれた。

嘗て僧の空海即ち弘法大師は支那留學中キリスト教を學び、是を我日本に傳へやうとしたが當時佛敎の勢力實に盛んで、彼の京都叡山延曆寺、亦大和の奈良は東大寺に於ても勢力非常なるものがあり、到底此の宗敎を弘め敎ふることの不可能を知り遂に大師は高野山にて成佛したと云ふ、そのキリスト敎的なる例は大和高峰山の麓にて前鬼と稱するところは村中皆眞言宗であると聞くがその佛壇にて佛を拜することがないと傳へ聞いてゐる。

現に景敎の碑は高野山に建てられてゐる。これ日本に傳はりたる歴史の證明にして弘法大師のいろは四十七文字も實はキリスト敎を詠んだもので成程七文字七文字に分けて最後の字を結び付ければ「咎なくして死す」となつて居るのを知る。

これはキリストの贖の死を暗に織り込んで歌つてゐると云ふ事が出来るのである、眞言宗にて行ふ灌頂式と云ふのはキリスト教の洗禮式より轉化したものであるらしくキリスト教と眞言宗との關係に就いては興味深いものがある。其昔應神天皇の御代紀元千六百年頃猶太人が日本に來たのは使徒行傳二章のペンテコステの日に敬虔なるユダヤ人が流れ流れて全世界の極まで傳へよとキリストの御言葉に従ふたものでないかと思ふ。今から六百五十年前弘安四年五月頃元の忽必烈が十万の兵を差向け我國を侵さんとした此元寇こそは我國にとりて一大警鐘である。此時我國は累卵の危きを奇蹟的に救はれた事は我等日本人にとりて忘るゝ事が出来ぬ則ち神風に依て敵を全滅したと云ふ事である、時の執權北條時宗は纔に十八歳、畏れ多くも龜山天皇御自ら伊勢大廟に御祈願あらせられ給ふた、此時に日蓮が起つた。

内村先生曰く

(皇室尊嚴に對する列王記略上一章三二—四〇)昨日は明治節であつたが今週は御大典が行はるゝ週である。吾々國民は此時に際して日本皇室の尊嚴を思はねばならぬ、我皇室は政治的の制度ではない、英國や伊國の皇室と其根本を異にする。成立について考へて見ても英國の皇帝は民が選んで成立したるもので國民多數の意見によりて廢止することが出来る、それ故に英國皇帝を稱して終生的大統領といふのである、米國大統領と異つて四年目毎に選ばれるのでなく世を繼いで代々皇帝である、日本皇室が全く其類を異にすることはよく知らるゝところである。

日本皇室を絶對的君主制度であると西洋人はいふが然らず、ある語弊はあるが無理にいふとすれば絶對的家長制度といふべきである。

日本皇帝陛下は日本人全体の親であり給ふ故に親権を以て國民に臨み給ふのである、家庭に於て其親を子が選舉することが出来ぬやうに日本の皇帝は選舉が出来ない親に家族のものが服従するやうに吾々は天皇陛下、皇后陛下を國父陛下、國母陛下として畏敬心従するのである。ソロモンを以て現はれたるイスラエルの王の制度はキリスト教の信仰を生んだ。基督教は神の國を教へるものであつてキリストは神の國の王である神より遣はされたる神の國の王である、選舉でない、神より直接に任命されたる神の國の王である。日本の皇室の精神はキリスト教の精神と合ふものである。

共和國の制度はキリスト教の精神と合はない（この点については）神様御自身が獨子を遣し給ふて神の國を治め給ふのである。だから選舉を要しない。キリスト教は家長主義、君主主義である。日本國は今や地球の表面に立つて唯一の國体として國家的に此の主義を標榜してゐるのである、メシヤ主義に

キリスト主義に繼續して万世一系皇統連綿として上に臨み給ふのである日本皇室は政治的權力によつて立たうとしたまはない。

米國の家庭では舊い話ではあるが私が目撃した所によると各自がその權利によつて行動する全信賴を以て父母に仕へる、吾々の家庭では決して見る事の出来ないことが彼の國の家庭では行はれる、夕方になると其父親が子供の一日の働きについて夫々報酬を仕拂ふ吾々は之を見て異様に感じるこれでは親に對して冷たい考へが起さる打算的な法律的な權力主義的な家庭になる。日本の家庭はかくの如き法律的な政治的な權力によつてたゞない家族の一人として無報酬的に働く、國民にしても然りである、大家族の一員として國の爲に働かんとする日本皇室は地球上唯一の國家として此主義を世界に標榜する日本の家庭組織が根本より覆へされんとする時に吾々は此聖書の精神によつて新らしく今一度各自の家庭を淨め吾々の信仰の立場より自分の必要より、

世界の立場よりこの御大典を心より祝はなければならぬ。
世界が今日本へ要求しつゝあるものがある、それは日本の皇室の此の根本精神である。

中田先生曰く

我日本人も神が日出る國に與へ給ふた約束を悉く成就し給ふまでは決して廢せざるべしとの大確信を抱くものである、全能の神エホバ詔命して日の出る所より日の入る所まであまねく地をよび給へり詩篇五十篇一節日の出る所より日の没する所まで。

列國の中に我名は大ならん、マラキ一章十一節日の出る所とは日本を指してゐる私は信ずる、イザヤは今より二千七百年前日本が形をなして居なかつた時

から聖靈により此事を豫言したのである、日の出る所とは希約語で「ミヅラホ」で東方日の出る國にて實際神は御榮を表して居給ふ、光は東よりとの聖詞から出て文字通り日の出る所より輝き、事實東よりといふ地理的に考へる時は如何に興味深い、聖書に於て再臨の主を象る曉の明星も義の太陽も共に東より昇り來るものである。されば我國は昔より豊葦原の瑞穂國とよばれて來た關係上このミヅラホとミヅホとは何となく語呂が似てゐる然もミヅラホとは日出る所と譯してゐるが日本語のミヅホとは瑞々しい穂を出す、起き上る、俗にみづみづしいといふのは新鮮なる勢を以てものが出て來る時の形容である、されば新しい齒が生へることを瑞齒ぐいといふのを見ても解る故にミヅラホとミヅホの兩者は語原を同じうするものではあるまいかと思はれる。いづれにしても神は現にこの瑞穂の國を祝福しつゝ居給ふのである。此國に神は驚くべき榮光を表し居給ふ現に神は妙なる御業を成して居給

ふことは感謝に堪へぬ。世界に於てキリスト教が行詰り居る時此の日の出る
國に於て聖業を表し給ふ日本人といつても何も特別な人種でもないが此國人
を撰んで世界に證しせしめんとして居給ふと確信す、故に汝ら東にてエホバ
をあげめ海のしまじまにてイスラエルの神、エホバの名をあげむべし。イザ
ヤ二四、一五節

ユダヤ人と日本人

「猶太人種の存在は一の奇蹟であり、又神の語る證である」とはユダヤ人ニ
ユマーク氏の述懐である。

嘗つてニユマーク氏は何の修飾もなく卒直に熱心に述べられた。氏は英
國の倫敦に生れた猶太人であつて信仰に入らない前には一般猶太人の如くキ

リストを反逆者であると思ひ、聖書は奇怪なる物語をもて充されたるものと
思つた。人格者なる神が在る杯と言ふ事は信じられなかつた。ユダヤ人以外の
ものは皆基督信者であると思ひ自分の周圍に在る英國人の信者を見て斯の如
き教には決して入るまじと決心してゐた、ユダヤ教の必要すらも感せず勿論
食事の時感謝もせなかつた、米國には三百三十萬のユダヤ人があるが何れも同
じ様な考へを以てゐると思はれる。日本に渡來して五年の間中金儲けの外
何もものもなく兄と二人で平安に過せしが兄は戦争の爲に歸英し一人神戸に止
まり某會社に奉職してゐた、兄去りし後は靜かなる讀書に由りて寂寥を慰め
て居りしが或時一冊の書物を手にした、これ宿の主婦から借りた聖書にて此
書は私をして神を探し求めしめ神は如何なる御方かと考へ始めた、何所に行
くにもこれを携へ遂に全巻を通讀し又繰り返して從來の偏見は全く除かれ神
の事人の事に就いて多く學び得た、そして人間は罪人であつてこれより救は

る、途は只主に由るの外なき事を示された。併し未だイエスはキリストなりとの信仰に達する事が出来なんだ。續いて新約聖書を読み始めマラキ書に録されし恐ろしき神の詛もイエスキリストに由りて除かれることを知り直ちに主イエスキリストを受け入れ神との和を得た。英國人が信者となる時は牧師は其肩に手をかけて善き子よと喜び祝ふてくれるがユダヤ人はそれと反対に人殺しよりも更に悪き人間として取扱はれる私も又路傍に於てユダヤ人が證をなしつゝあるを見る時には悪感情を抱き見向きもせなんだ、併し私は信仰に入つた事を手紙を以て倫敦に在る家族に告白した、此時神より眞の平和と喜びとを與へられた私の兄は其後再び日本に來た、或時共に道を行く際此兄に向つて信仰の告白をした、兄は見る間に顔色を變へて怒つた、其翌日私に手紙を送つて最早斷然絶交する故汝の汚れたる金をも送る勿れと言つて來た、私と兄とは眞に相愛して居た故此時程私の心に大なる憂と悲しみを覺

わた事はない、私は直ちに返書を書いて「私を救ひ給ふたのは基督でありて彼こそは吾儕の救主でありて卿等が吾を棄つるとも神の愛は決して吾を忘れぬ、肉身としては此上なき苦痛なれども致し方なし」と書き送つた、故國の母は三日間泣き續け「私の可愛い子供はクリスチャンになつた」と嘆きしとの事である。又他の兄弟も頻りに信仰を棄てよと言ひ越した、併し迫害は幸福な事にて主のみが平和を興へる、總ての人が吾を棄つるとも主は吾を棄て給はぬ、主こそは實に讚美す可き御方である。今や二年餘り兩親友人より一通の書信も來ない、余は唯主に頼り多くの迫害を受けながら或は證詞をなし或は小冊子を以て日本に在る外國人に傳道した、併し今は切に歸國せん事を願ふ、曾て嘲笑の眼を以て路傍に證せし人を見たる其街路にて勇ましく證せんと決心して居る。私は約翰第一書一ノ九「若し己れの罪を認さば神は誠實なる誠義者なれば必ず吾儕の罪を赦し凡ての不義より吾儕を潔む可し」との

聖言に由りて罪を赦されしも自身の心にある罪を思ふ時に他人の爲めに祈る杯とは思ひも由らず又日毎の失敗の生涯を思ふ時に苦痛甚しく主に助けられ善事をなすよりも主を助けて善事をなさんとして居た、併し神は私に「凡ての事は主に由りてのみ爲し得らるるもので」あると教へて下さつた。一切を主に任せ主は吾心の汚れを潔め聖靈に由りて全く吾を充たし自由なるものとなし給ふた。主が凡ての不義より潔め給ふならば吾に罪ある筈なし、吾儕に於ては生けるは唯基督のみである。又此世の財に心を止む可からざる事を教へられて十分の一献金を始めた、又神の國と其義しきを求むるものに主は一切の必要を充たし給ふ事を信じ貯金の全部を献金した、而して三百圓の月給中八十圓にて生活して二百二十圓を神に献じる事にしてをる。余は又「義しき者の篤き祈りは病めるものを救ふべし」との聖語に由りて勵まされ神に癒を求め遂に眼病を癒されたのみならず健康をも神に由りて得る様になつた。故

に決して部分的の事を言はない。今やユダヤ人はバレストアインを指して歸國しつゝある、これ即ち聖書の豫言の成就しつゝある事實である。併し猶太人は此事に氣附かずに居る、英國は今ユダヤ人を聖地に送り還しつゝある、此中には信者もマホメット教徒も偶像信者もある。主の再臨は何時あるか其日時は分らぬ。併し其時には信者は携へ擧げられ、後に地上に降臨されます、今日多くのユダヤ人が歸國しつゝあるが彼等は大患難に遭はん爲に歸國しつゝある如きものである、救はれ居る吾儕は空中に携へ擧げられて此患難を免れる事が出来る。然る後にユダヤ人は國民として救はるゝ事が出来る、諸君は彼等の爲に傳道する事は出来ぬが彼等の爲に祈る事は出来る。これは神の喜び給ふ所である、諸君が救はれたのは猶太人に由りてゝある。キリストも十二使徒も猶太人であつた、それ故にユダヤ人が救はるゝ事は大切な事である、云々。

日本人と猶太人と類似點の多き事、

聖書は西洋人よりも日本魂に訴ふる所が深い、

猶太人と日本人とは骨相類似以上に深き關係がある、

キリスト教は決して英米人より教へらるべきものではない。

神は大御計畫を御立てになり世界万物と人類を創り給ふて地球の全面に置き給ふ、新約に依る聖詞としてヨハネ傳一章一節にあり新約聖書黙示録二二章

十八十九節舊約聖書ダニエル二章卅一節より四十五節説明、左に

一、純金の頭、バビロンネブカネザル大王なり、

二、銀の胸、メデヤベルシヤ聯合王國なり、

三、銅の腹、腿、ギリシヤアレキサンダー大王なり、

四、鐵の腰、脚、ローマ帝國なり、

この流れとして英米獨佛の文明之なり。

五、脚の一部は鐵、一部は泥土現代の時、鐵とは即ち君主政治、泥土とは民

本民衆政治のこと、

人心浮薄個人主義、國としても然り自己而已他を顧みる事なく己の利是而己に走り公德道徳は地に落ち、遂に世界が争を起し人類が治らず人手に依らず切出されし石則ちキリスト再臨成し給ふて神の王國建設され初めて平和

が来る。

人間の初めはアダムが妻エバに勧められて罪を犯したるにより水に依り一掃し皆殺しにされたる時ノア一家は神を信じ救はれて一家八人殘され又人類を起されたり然るに矢張りアダムの血が罪を犯しキリストの表はれとなりて再び我々の罪を除かんと救主なるキリストを此世に來らせ給ひ遂に十字架の血を流し是に依り神の聖靈を與へ罪の子なる我々を救ひ給ふ事となりたれば天の父なる神を拜し罪を悔て神に従ふ事に依りて神の子として永遠限りなく生

命を給ふ、それ故我々は潔きものとされ神の子として此世に生くれば最早神の子たり再び罪人とならざる様神共に居まして絶へず祈りて感謝と喜びの生涯を送るべきである。

此世にあらん限り神免し給はらば、勇往邁進縦へ水火の中の苦難にても聖名の爲めいそしみつ、主の再臨を仰ぐまで。アーメン

昭和八年初夏

芦屋の里にて

七十翁 靈峰 著

昭和八年六月廿二日印刷
昭和八年六月廿二日發行

〔非賣品〕

著者

青木庄藏

編輯兼發行印刷人

山口一郎

印刷所

大上成堂

發行所

財團法人青木匡濟團

電話堀川一七〇四番

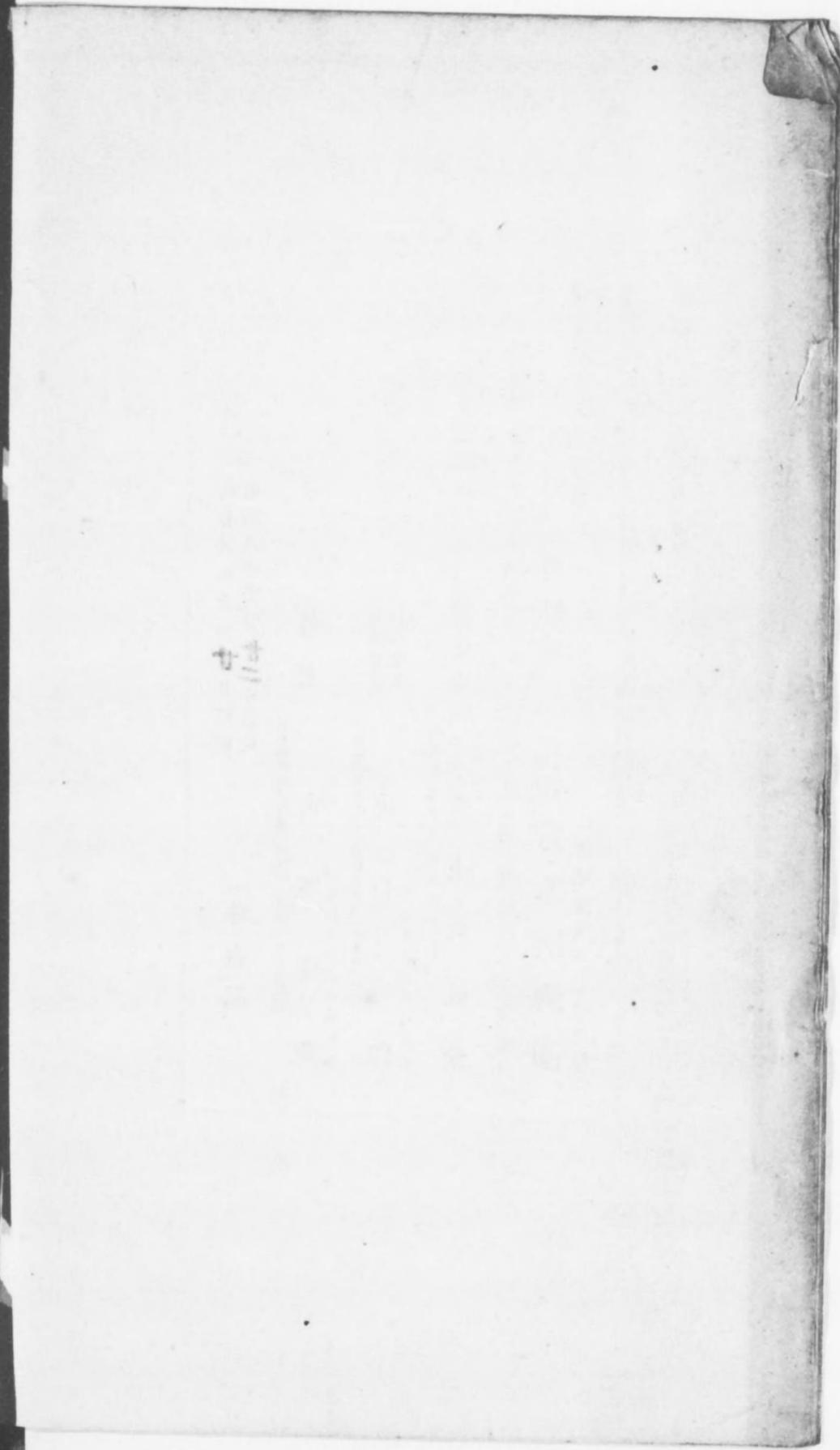
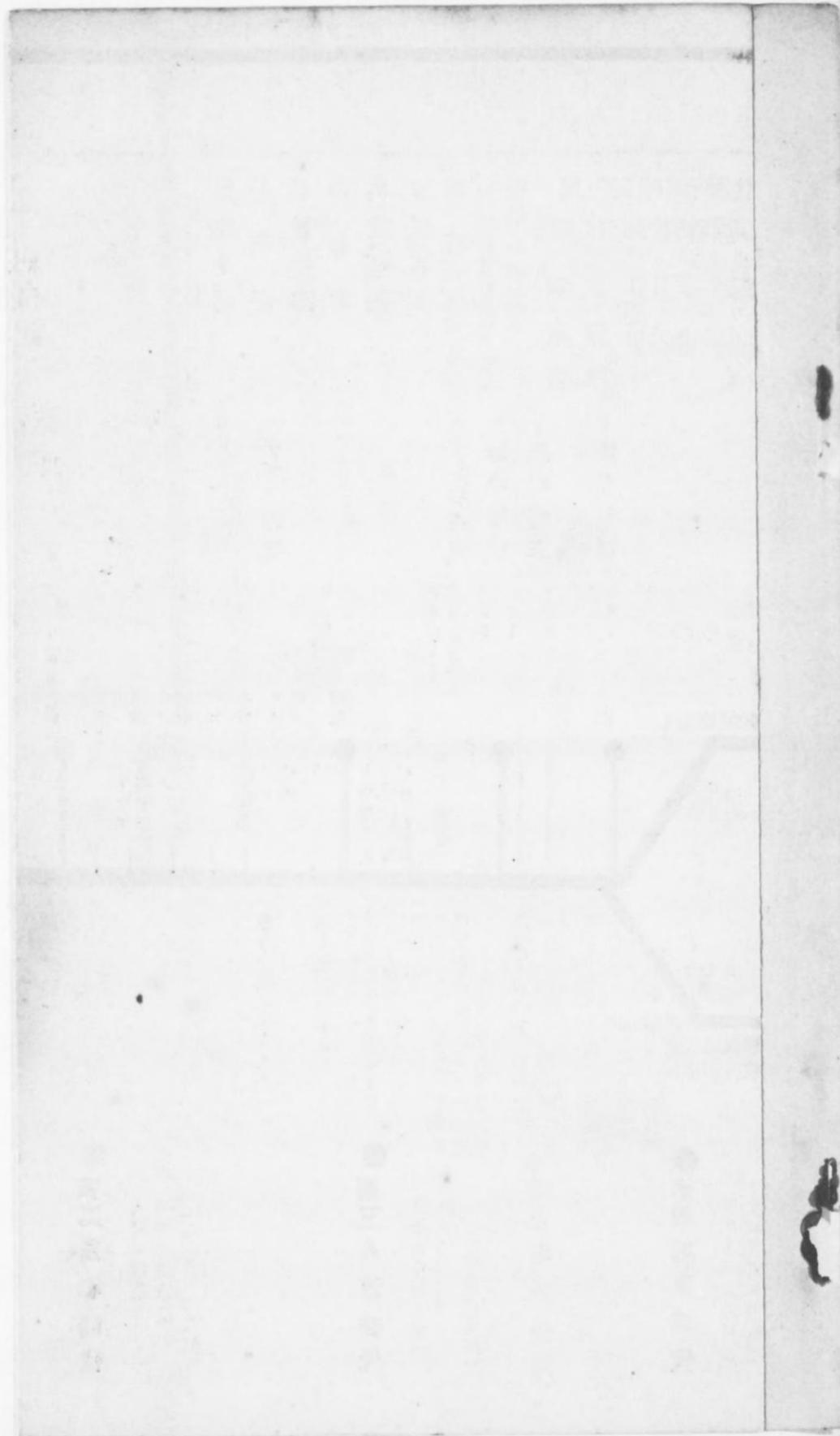
大阪市北區北同心町二丁目二十九番地

大阪市北區船場尾町十一番地ノ二

兵庫縣武庫郡禮道村芦屋打出字郷ノ本十七番地

電話芦屋三九四五番

電話御影四九三四番



聖書の時代的表覽

太初 (約一〇一)
永遠

● 時代的區分

● 第一無邪氣時代

アダムの創造より
エデンの園外に追
る迄
(不明)

● 第二良心時代

人間の墮落より
ノアの洪水迄
(千六百五十六年)

● 第三人政時代

洪水よりバベルの
塔まで
(四百廿七年)

● 第四約束時代

アブラハムの召よ
りエザブトの帳迄
(四百三十年)

● 第五律法時代

シナイ山より
カルバリー迄
(千五百年)

天地創造

萬物の創造

〔アダムの創造〕人間の創造

〔失樂園〕人間の墮落

〔神の審判〕ノアの洪水

セムアブラハムユダヤ人
ハム奴隸アラビヤ人
ヤベテ白哲人

〔バベルの塔〕バベルの離散

暗黒時代 三百十二年

〔撰民の初〕アブラハムの召

イサク

イサク (ヤコブ
エザブト)

イスラ 十二支派

ヨセフ

エザブトにゆく
ヤコブの死

モーセの時代

エザブトを出てよ
りシナイ迄三ヶ月

エザブトを出
カナンに入る
ヨシユヤの豫言

サウル

ダビデ

ソロモン

エズラエル分離

バビロン

セデキヤ

七十年間

バビロンに居

エズラ時代

ネヘミヤ

マラキ

アポクリフハ
マカビース

(此間は四百年)

創世記

記約百記?

出埃及記

利未記

民數記

申命記

約書亞記

士師記

路得記

撒母耳記

列王傳

記約百記

阿巴底亞書

約拿書

約瑟書

米迦書

以賽亞書

歷代志上

代志下

拿番雅書

哈巴谷書

(卡)略志

以西結書

但以理書

以士喇書

尼希米亞記

馬拉基書

アポクリフハ...〔中間歴史〕

キリストの誕生 (路三八三)

十字架

昇天 (徒一〇九)



キリストの誕

(使二七三三)
(徒一〇八七)

人間の墮落より
ノアの洪水迄
(千六百五十六年)

出埃及記
利未記
民數記
申命記
約書亞記
士師記
路得記

〔エチプトに往く〕
〔エチプトの梟〕
〔エチプトを出づ〕
〔カナンの占領〕
〔士師の時代〕
〔王國の建立〕

〔出十二〇五十五、五十一〕
〔出十九〇二十〕
ヨセフの死よりエチプトを出カナン占領まで百八十四年
〔書十三〇一〕
〔母前二〇一四〕
〔母前一〇卅九、四十〕
〔王上十二〇十六〕

● 第三 人政時代
洪水よりバベルの塔まで
(四百廿七年)

撒母耳記
列王傳
列王紀
列王下
列王上
列王紀下
列王紀上
列王紀中

〔王國の分別〕
〔ユダの捕虜〕
〔七十年間〕
〔捕虜の恢復〕

以士帖書
以拉巴書
以拉巴書
以拉巴書
以拉巴書

〔ユダの捕虜〕
〔七十年間〕
〔捕虜の恢復〕

昇天 (徒一〇九)
十字架
キリストの誕生 (路三八・廿)



〔使一七〇三五〕
〔使二八〇七二〕

〔使一七〇三五〕
〔使二八〇七二〕

〔使一七〇三五〕
〔使二八〇七二〕

〔使一七〇三五〕
〔使二八〇七二〕

↓ 聖靈降臨 (使二)

代時會教 (代時惠恩)
哥前十五〇五五
哥後六

義人、聖徒、化
↑ (哥前十五〇五五、五二)

● 第六 恩惠時代
十字架より
キリストの
空中再臨迄
(不明)

主空中迄來降
主空中會合
黙二〇廿三
黙二〇廿七
黙二〇三二
黙二〇三六
黙二〇四〇
黙二〇四四
黙二〇四八
黙二〇五二
黙二〇五六
黙二〇六〇
黙二〇六四
黙二〇六八
黙二〇七二
黙二〇七六
黙二〇八〇
黙二〇八四
黙二〇八八
黙二〇九二
黙二〇九六
黙二一〇〇
黙二一〇四
黙二一〇八
黙二一一二
黙二一一六
黙二一二〇
黙二一二四
黙二一二八
黙二一三二
黙二一三六
黙二一四〇
黙二一四四
黙二一四八
黙二一五二
黙二一五六
黙二一六〇
黙二一六四
黙二一六八
黙二一七二
黙二一七六
黙二一八〇
黙二一八四
黙二一八八
黙二一九二
黙二一九六
黙二二〇〇
黙二二〇四
黙二二〇八
黙二二一二
黙二二一六
黙二二二〇
黙二二二四
黙二二二八
黙二二三二
黙二二三六
黙二三四〇
黙二三四四
黙二三四八
黙二三五二
黙二三五六
黙二三六〇
黙二三六四
黙二三六八
黙二三七二
黙二三七六
黙二三八〇
黙二三八四
黙二三八八
黙二三九二
黙二三九六
黙二四〇〇
黙二四〇四
黙二四〇八
黙二四一二
黙二四一六
黙二四二〇
黙二四二四
黙二四二八
黙二四三二
黙二四三六
黙二四四〇
黙二四四四
黙二四四八
黙二四五二
黙二四五六
黙二四六〇
黙二四六四
黙二四六八
黙二四七二
黙二四七六
黙二四八〇
黙二四八四
黙二四八八
黙二四九二
黙二四九六
黙二五〇〇
黙二五〇四
黙二五〇八
黙二五一二
黙二五一六
黙二五二〇
黙二五二四
黙二五二八
黙二五三二
黙二五三六
黙二五四〇
黙二五四四
黙二五四八
黙二五五二
黙二五五六
黙二五六〇
黙二五六四
黙二五六八
黙二五七二
黙二五七六
黙二五八〇
黙二五八四
黙二五八八
黙二五九二
黙二五九六
黙二六〇〇
黙二六〇四
黙二六〇八
黙二六一二
黙二六一六
黙二六二〇
黙二六二四
黙二六二八
黙二六三二
黙二六三六
黙二六四〇
黙二六四四
黙二六四八
黙二六五二
黙二六五六
黙二六六〇
黙二六六四
黙二六六八
黙二六七二
黙二六七六
黙二六八〇
黙二六八四
黙二六八八
黙二六九二
黙二六九六
黙二七〇〇
黙二七〇四
黙二七〇八
黙二七一二
黙二七一六
黙二七二〇
黙二七二四
黙二七二八
黙二七三二
黙二七三六
黙二七四〇
黙二七四四
黙二七四八
黙二七五二
黙二七五六
黙二七六〇
黙二七六四
黙二七六八
黙二七七二
黙二七七六
黙二七八〇
黙二七八四
黙二七八八
黙二七九二
黙二七九六
黙二八〇〇
黙二八〇四
黙二八〇八
黙二八一二
黙二八一六
黙二八二〇
黙二八二四
黙二八二八
黙二八三二
黙二八三六
黙二八四〇
黙二八四四
黙二八四八
黙二八五二
黙二八五六
黙二八六〇
黙二八六四
黙二八六八
黙二八七二
黙二八七六
黙二八八〇
黙二八八四
黙二八八八
黙二八九二
黙二八九六
黙二九〇〇
黙二九〇四
黙二九〇八
黙二九一二
黙二九一六
黙二九二〇
黙二九二四
黙二九二八
黙二九三二
黙二九三六
黙二九四〇
黙二九四四
黙二九四八
黙二九五二
黙二九五六
黙二九六〇
黙二九六四
黙二九六八
黙二九七二
黙二九七六
黙二九八〇
黙二九八四
黙二九八八
黙二九九二
黙二九九六
黙三〇〇〇
黙三〇〇四
黙三〇〇八
黙三〇一二
黙三〇一六
黙三〇二〇
黙三〇二四
黙三〇二八
黙三〇三二
黙三〇三六
黙三〇四〇
黙三〇四四
黙三〇四八
黙三〇五二
黙三〇五六
黙三〇六〇
黙三〇六四
黙三〇六八
黙三〇七二
黙三〇七六
黙三〇八〇
黙三〇八四
黙三〇八八
黙三〇九二
黙三〇九六
黙三一〇〇
黙三一〇四
黙三一〇八
黙三一一二
黙三一一六
黙三一二〇
黙三一二四
黙三一二八
黙三一三二
黙三一三六
黙三一四〇
黙三一四四
黙三一四八
黙三一五二
黙三一五六
黙三一六〇
黙三一六四
黙三一六八
黙三一七二
黙三一七六
黙三一八〇
黙三一八四
黙三一八八
黙三一九二
黙三一九六
黙二〇〇〇

推挙 (黙前四〇七)
白三〇日 大患難時代
黙現 (黙后一〇七)

綿羊の審判
黙二〇四
黙二〇六
黙二〇八
黙二一〇
黙二一二
黙二一四
黙二一六
黙二一八
黙二二〇
黙二二二
黙二二四
黙二二六
黙二二八
黙二三〇
黙二三二
黙二三四
黙二三六
黙二三八
黙二四〇
黙二四二
黙二四四
黙二四六
黙二四八
黙二五〇
黙二五二
黙二五四
黙二五六
黙二五八
黙二六〇
黙二六二
黙二六四
黙二六六
黙二六八
黙二七〇
黙二七二
黙二七四
黙二七六
黙二七八
黙二八〇
黙二八二
黙二八四
黙二八六
黙二八八
黙二九〇
黙二九二
黙二九四
黙二九六
黙二九八
黙三〇〇
黙三〇二
黙三〇四
黙三〇六
黙三〇八
黙三一〇
黙三一二
黙三一四
黙三一六
黙三一八
黙三二〇
黙三二二
黙三二四
黙三二六
黙三二八
黙三三〇
黙三三二
黙三三四
黙三三六
黙三三八
黙三四〇
黙三四二
黙三四四
黙三四六
黙三四八
黙三五〇
黙三五二
黙三五四
黙三五六
黙三五八
黙三六〇
黙三六二
黙三六四
黙三六六
黙三六八
黙三七〇
黙三七二
黙三七四
黙三七六
黙三七八
黙三八〇
黙三八二
黙三八四
黙三八六
黙三八八
黙三九〇
黙三九二
黙三九四
黙三九六
黙三九八
黙四〇〇
黙四〇二
黙四〇四
黙四〇六
黙四〇八
黙四一〇
黙四一二
黙四一四
黙四一六
黙四一八
黙四二〇
黙四二二
黙四二四
黙四二六
黙四二八
黙四三〇
黙四三二
黙四三四
黙四三六
黙四三八
黙四四〇
黙四四二
黙四四四
黙四四六
黙四四八
黙四五〇
黙四五二
黙四五四
黙四五六
黙四五八
黙四六〇
黙四六二
黙四六四
黙四六六
黙四六八
黙四七〇
黙四七二
黙四七四
黙四七六
黙四七八
黙四八〇
黙四八二
黙四八四
黙四八六
黙四八八
黙四九〇
黙四九二
黙四九四
黙四九六
黙四九八
黙五〇〇
黙五〇二
黙五〇四
黙五〇六
黙五〇八
黙五一〇
黙五一二
黙五一四
黙五一六
黙五一八
黙五二〇
黙五二二
黙五二四
黙五二六
黙五二八
黙五三〇
黙五三二
黙五三四
黙五三六
黙五三八
黙五四〇
黙五四二
黙五四四
黙五四六
黙五四八
黙五五〇
黙五五二
黙五五四
黙五五六
黙五五八
黙五六〇
黙五六二
黙五六四
黙五六六
黙五六八
黙五七〇
黙五七二
黙五七四
黙五七六
黙五七八
黙五八〇
黙五八二
黙五八四
黙五八六
黙五八八
黙五九〇
黙五九二
黙五九四
黙五九六
黙五九八
黙六〇〇
黙六〇二
黙六〇四
黙六〇六
黙六〇八
黙六一〇
黙六一二
黙六一四
黙六一六
黙六一八
黙六二〇
黙六二二
黙六二四
黙六二六
黙六二八
黙六三〇
黙六三二
黙六三四
黙六三六
黙六三八
黙六四〇
黙六四二
黙六四四
黙六四六
黙六四八
黙六五〇
黙六五二
黙六五四
黙六五六
黙六五八
黙六六〇
黙六六二
黙六六四
黙六六六
黙六六八
黙六七〇
黙六七二
黙六七四
黙六七六
黙六七八
黙六八〇
黙六八二
黙六八四
黙六八六
黙六八八
黙六九〇
黙六九二
黙六九四
黙六九六
黙六九八
黙七〇〇
黙七〇二
黙七〇四
黙七〇六
黙七〇八
黙七一〇
黙七一二
黙七一四
黙七一六
黙七一八
黙七二〇
黙七二二
黙七二四
黙七二六
黙七二八
黙七三〇
黙七三二
黙七三四
黙七三六
黙七三八
黙七四〇
黙七四二
黙七四四
黙七四六
黙七四八
黙七五〇
黙七五二
黙七五四
黙七五六
黙七五八
黙七六〇
黙七六二
黙七六四
黙七六六
黙七六八
黙七七〇
黙七七二
黙七七四
黙七七六
黙七七八
黙七八〇
黙七八二
黙七八四
黙七八六
黙七八八
黙七九〇
黙七九二
黙七九四
黙七九六
黙七九八
黙八〇〇
黙八〇二
黙八〇四
黙八〇六
黙八〇八
黙八一〇
黙八一二
黙八一四
黙八一六
黙八一八
黙八二〇
黙八二二
黙八二四
黙八二六
黙八二八
黙八三〇
黙八三二
黙八三四
黙八三六
黙八三八
黙八四〇
黙八四二
黙八四四
黙八四六
黙八四八
黙八五〇
黙八五二
黙八五四
黙八五六
黙八五八
黙八六〇
黙八六二
黙八六四
黙八六六
黙八六八
黙八七〇
黙八七二
黙八七四
黙八七六
黙八七八
黙八八〇
黙八八二
黙八八四
黙八八六
黙八八八
黙八九〇
黙八九二
黙八九四
黙八九六
黙八九八
黙九〇〇
黙九〇二
黙九〇四
黙九〇六
黙九〇八
黙九一〇
黙九一二
黙九一四
黙九一六
黙九一八
黙九二〇
黙九二二
黙九二四
黙九二六
黙九二八
黙九三〇
黙九三二
黙九三四
黙九三六
黙九三八
黙九四〇
黙九四二
黙九四四
黙九四六
黙九四八
黙九五〇
黙九五二
黙九五四
黙九五六
黙九五八
黙九六〇
黙九六二
黙九六四
黙九六六
黙九六八
黙九七〇
黙九七二
黙九七四
黙九七六
黙九七八
黙九八〇
黙九八二
黙九八四
黙九八六
黙九八八
黙九九〇
黙九九二
黙九九四
黙九九六
黙九九八
黙一〇〇〇

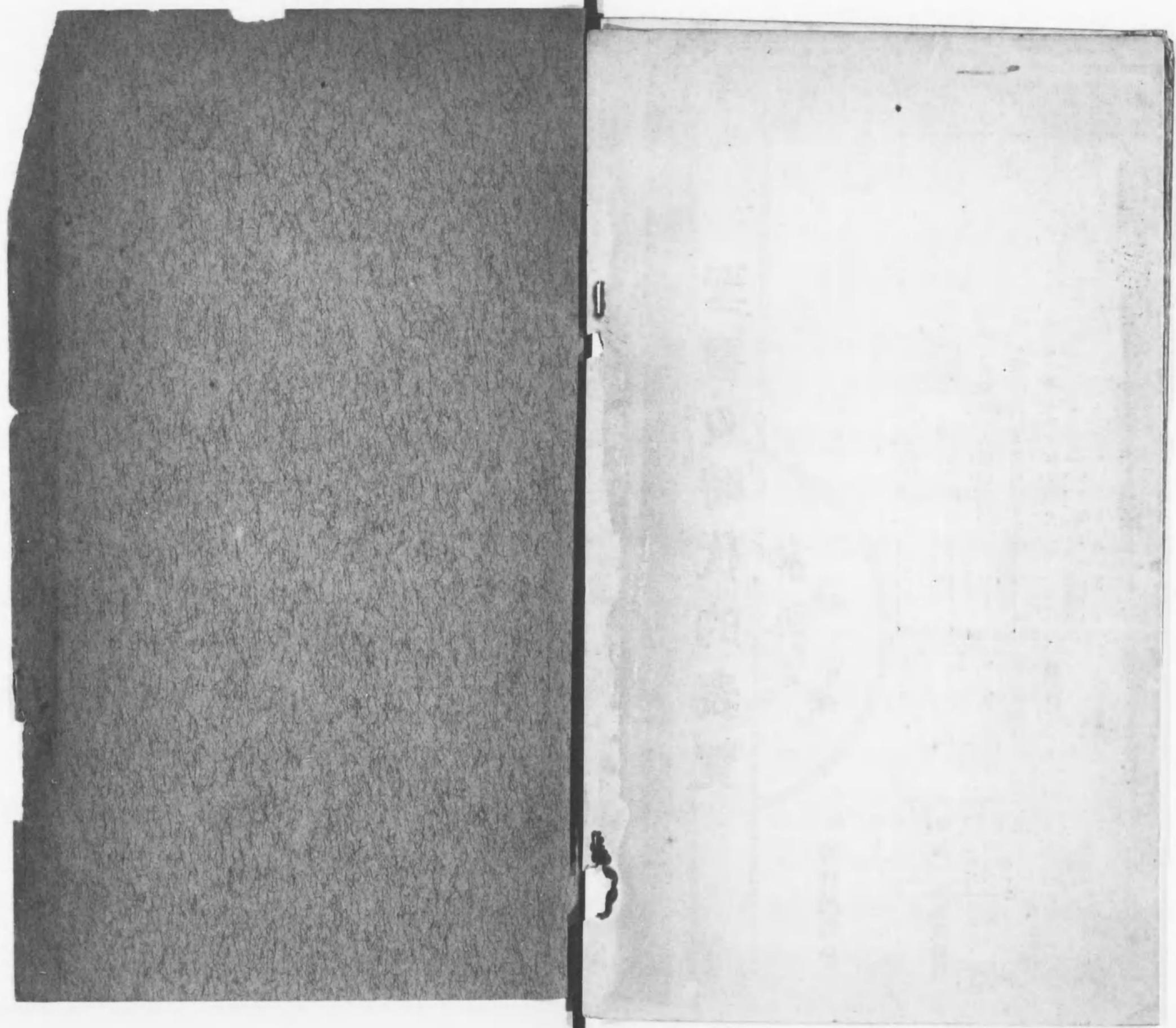
患難時代に於ける殉教者の薨り (黙三〇四)
サタンの幽閉 (黙二〇一)
羅八〇一
黙二〇七
黙二〇九
黙二一一
黙二一三
黙二一五
黙二一七
黙二一九
黙二二一
黙二二三
黙二二五
黙二二七
黙二二九
黙二三一
黙二三三
黙二三五
黙二三七
黙二三九
黙二四一
黙二四三
黙二四五
黙二四七
黙二四九
黙二五一
黙二五三
黙二五五
黙二五七
黙二五九
黙二六一
黙二六三
黙二六五
黙二六七
黙二六九
黙二七一
黙二七三
黙二七五
黙二七七
黙二七九
黙二八一
黙二八三
黙二八五
黙二八七
黙二八九
黙二九一
黙二九三
黙二九五
黙二九九
黙三〇三
黙三〇七
黙三一〇
黙三一二
黙三一四
黙三一六
黙三一八
黙三二〇
黙三二二
黙三二四
黙三二六
黙三二八
黙三三〇
黙三三二
黙三三四
黙三三六
黙三三八
黙三四〇
黙三四二
黙三四四
黙三四六
黙三四八
黙三五〇
黙三五二
黙三五四
黙三五六
黙三五八
黙三六〇
黙三六二
黙三六四
黙三六六
黙三六八
黙三七〇
黙三七二
黙三七四
黙三七六
黙三七八
黙三八〇
黙三八二
黙三八四
黙三八六
黙三八八
黙三九〇
黙三九二
黙三九四
黙三九六
黙三九八
黙四〇〇
黙四〇二
黙四〇四
黙四〇六
黙四〇八
黙四一〇
黙四一二
黙四一四
黙四一六
黙四一八
黙四二〇
黙四二二
黙四二四
黙四二六
黙四二八
黙四三〇
黙四三二
黙四三四
黙四三六
黙四三八
黙四四〇
黙四四二
黙四四四
黙四四六
黙四四八
黙四五〇
黙四五二
黙四五四
黙四五六
黙四五八
黙四六〇
黙四六二
黙四六四
黙四六六
黙四六八
黙四七〇
黙四七二
黙四七四
黙四七六
黙四七八
黙四八〇
黙四八二
黙四八四
黙四八六
黙四八八
黙四九〇
黙四九二
黙四九四
黙四九六
黙四九八
黙五〇〇
黙五〇二
黙五〇四
黙五〇六
黙五〇八
黙五一〇
黙五一二
黙五一四
黙五一六
黙五一八
黙五二〇
黙五二二
黙五二四
黙五二六
黙五二八
黙五三〇
黙五三二
黙五三四
黙五三六
黙五三八
黙五四〇
黙五四二
黙五四四
黙五四六
黙五四八
黙九五〇
黙九五二
黙九五四
黙九五六
黙九五八
黙九六〇
黙九六二
黙九六四
黙九六六
黙九六八
黙九七〇
黙九七二
黙九七四
黙九七六
黙九七八
黙九八〇
黙九八二
黙九八四
黙九八六
黙九八八
黙九九〇
黙九九二
黙九九四
黙九九六
黙九九八
黙一〇〇〇

● 第七 王國時代
地上再臨
より
壹千年間
(黙后三〇三・七)

新天
新地
大審判
哥前十五〇二六
黙二〇一
黙二〇七
賽五七〇一五
永遠
賽五七〇一五

最終の復生
全死者の甦 (黙二〇一・十五)

天よりの猛火地球の破滅
(黙后三〇三)



終

